三沢病院だより

令和 元年
10 月

臨床研修医　佐々木 大地

特集「実習生日記」2名の実習生

クリニカルクラークシップに参加させていただいて

各科紹介

産婦人科外来をご紹介

三沢市立三沢病院
〒033-0022　青森県三沢市大字三沢字堀口164番地65号
電話番号：0176-53-2161（代表）　ＦＡＸ：0176-53-2173
ｈｔｔｐ//www.hospital.misawa.aomori.jp/

クリニカルクラークシップに参加させていただいて

弘前大学医学部医学科　5年　土屋　敏裕

４月に三沢病院の外科にてクリニカルクラークシップでお世話になりました。弘前大学では本年度から医学科の５年生は全員、県内の病院で４週間の外科実習を行います。三沢病院には私が最初の学生として伺いました。

私は埼玉県の出身です。大学のある弘前以外での生活は初めてでした。おまけに、初日は季節外れの吹雪。三沢は雪が少ないと聞いていたので驚きました。おまけに雪でタブレットを落として画面が粉々になるというハプニングも。一体どんな実習になるのか不安だらけでしたが、最終日は満開の桜に見送られたような素晴らしい実習になりました。外来や病棟での実習や腹腔鏡手術への参加など、ここでしかできない貴重な体験をさせていただきました。外科の松本副院長、池永先生、久保先生ほかスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

三沢病院の印象を一言でいえば「密度が濃い病院」でした。ダ・ヴィンチなど最新の医療設備の完備、それを使いこなせる能力の高いスタッフの存在、診療科の垣根を超えた緊密な連携など、高度かつ専門的な医療がコンパクトな施設にギュッと詰まった印象でした。同時に、人づくりの点でも優れた施設でした。学生にも成長を促す姿勢で、時には厳しく接してくださいました。「こんな病院が身近にあれば安心だな」と実習中に何度も感じたものです。

私は社会人を長く経験してから医学部に入学しました。このため、職場を視察するような視点でも三沢病院を見ていました。院内では廊下やたとえ階段室でも、スタッフの間で挨拶が交わされます。また、施設の見えない所まで清潔で、整理・整頓が行き届いています。基本的なことですが、どれだけの職場で実践できているでしょう。そして何より、スタッフの皆さんが元気で明るい！。この気持ち良さは、施設を利用する患者さんにも自然と伝わっていることだと思います。そこにいるだけで元気になれるのが三沢病院です。

それだからでしょうか。外来はいつも患者さんで混雑していました。たくさんの患者さんをお待たせしている様子は、学生の私でも心苦しくなりました。外来の診療は手際が良く、とても勉強になるものでした。これ以上の時間の短縮は、きっとサービスの低下と受け取られることでしょう。一方で、医師を増やすには魅力ある設備や条件の整備が必要で、費用がかかる話になります。この点は、地域の皆様のご理解が必要なことだと思います。

できれば卒業後はこの病院で初期研修を受けたいと思いましたが、優秀な先輩方が入職している施設ですので高望みかなと感じています。せめてこの経験を今後の学習に活かしていきたいと思います。どこから見てもおじさんの私を暖かく迎えてくださったスタッフの皆様、また実習にご協力をいただいた患者さんに心からお礼を申し上げます。特に、嫌な顔一つせずにお付き合いいただいた担当患者さんには、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

外科臨床実習（クリニカルクラークシップ）に参加させていただいて

弘前大学医学部医学科 5年　山﨑　槙一

6月の1ヶ月間、三沢市立三沢病院の外科にて臨床実習をさせていただき大変お世話になりました。5年生は基本的に弘前大学医学部付属病院にて実習しているのですが、今年度から一部期間を市中病院で実習できることになりました。このことから、私は東北地方でも有数の最新型の手術支援ロボット（da Vinci Xi）が導入されており、また在学中にお世話になった先輩が研修医をされている三沢市立三沢病院での実習を今回希望しました。なお、三沢市にも今回初めての訪問となりました。

実習では病棟や手術、検査などについて、事前の訓練と指導医監修の元で様々な手技や経験をさせて頂くことができました。手術では虫垂炎や胆嚢結石症といったCommon Disease（誰でもなりうるありふれた病気）の手術から最新型の手術支援ロボット（da Vinci Xi）を用いた大腸癌の手術まで幅広い症例を経験することができました。また、三沢米軍基地病院の先生との共同手術に入る機会もあり、英語でやりとりされる姿はとても格好良く感じ、「やっぱり英語を勉強せねば」とモチベーションが上がりました。病棟では2名の患者さんを受け持ちさせていただき、患者さんの日々の体調をお聞きし、身体所見（心音や呼吸音など）を調べてカルテにまとめることで、病気や病態、その背景について理解を深めることができました。また、患者さんが入院し、手術をして退院するまでの一連の経過を経験することが出来ました。

私は普段からその分野における距離感（各要素がどのくらいの距離でリンクしているのか）を大事にしているのですが、どのくらいの規模の手術だとどのくらいの日数で患者さんが退院できるのか、そのときの患者さんの様子や表情はどうか、食事はいつから止めて、いつから再開するのか、何を食べるのかなどの術前・術後管理について実際を経験することで、教科書を読むだけでは掴めないような、いわば現場感覚を掴むことができたと思います。

また、とてもコミュニケーション良く、明るい雰囲気がありながらもきっちりと仕事が進んでおり、チーム医療のお手本を見ることができましたし、これがプロフェッショナル集団だと感じました。対応の難しい患者さんとのやりとりやアンガーマネジメント（怒りの感情と上手につきあうための方法論）についても非常に勉強になりました。

これまで私は外科の雰囲気には少し苦手意識を持っていたのですが、今回の実習が始まってみると、市中病院の外科は私が子供の頃からイメージしていた医師という姿にかなり近いものがあると気づかされました。現在、日本では外科医の成り手が減少しています。労働時間が長いという点が主な理由です。実際に実習でも先生方は朝から晩まで手術をし、そこから病棟業務や書類仕事をこなすという日があり大変な印象を受けました。その一方で、苦しそうな患者さんが手術によって徐々に回復し、元気になって退院していく姿を見ると、非常にやりがいのある仕事だと思いました。

実習以外では、夕方には野球チームの練習に参加させていただいたり、自転車（ロードバイク）を持参してきたので週末はおいらせ町の牧場風景の中を走ったり、酸ヶ湯経由で弘前に戻ったりと充実した日々を過ごすことが出来ました。また、6月末にはちょうどAmerican dayが開催されていたため、三沢米軍基地内でアメリカの救急車や消防車の見学、CHARLEY'S PHILLY STEAKS（日本国内未出店！）でサンドイッチを堪能するなどプチアメリカ旅行をすることが出来ました。

1ヶ月という短い期間でしたが半年ぐらいいたのではないかというぐらい濃密な時間を過ごすことができました。様々な症例を経験することで技術的にも人間的にも成長できたと思います。また6年次に実習させていただければ幸いです。

外科の松本先生、池永先生、久保先生には大変お世話になりました。大変お忙しい中、熱心にご指導いただきありがとうございました。また、医局の先生方、研修医の樽澤先生、佐々木先生、東2病棟の看護師のみなさま、手術室スタッフのみなさま、事務のみなさまなど大変お世話になりました。多忙な日々かと思いますがお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

産婦人科外来紹介

産婦人科外来は、妊婦健診と婦人科の一般診療を行っています。

当院の妊婦健診は医師の診察を受ける妊婦健診と、平成２２年から助産師外来を行っています。助産師外来は、助産師が医師と協力しながら妊婦健診・保健指導を行う外来で、妊婦健診に医師は立ち会わず、助産師が処方します。

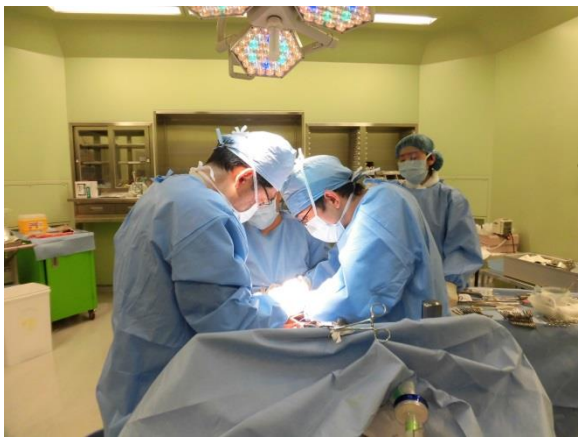
また、診察が必要と判断した場合、医師の診察を受ける体制になっています。

今年から常勤医師が２人体制となり、応援医師も診察し妊婦健診を行っています。

さらに、子宮筋腫、卵巣嚢腫などの手術から、悪性腫瘍まで手術範囲は広がり、腹腔鏡での手術も行っています。

受診希望、分娩希望は予約制となっていますが、希望のある方は産婦人科外来までご連絡ください。

産婦人科医師



婦人科手術中

産婦人科スタッフ